

「鉱物 人と文化をめぐる物語」

著者：堀 秀道 ホリ ヒデミチ

文庫：383 ページ

出版社：筑摩書房 (2017/12/7)

言語：日本語

ISBN-10: 4480098356

ISBN-13: 978-4480098351

発売日：2017/12/7

梱包サイズ：14.8 x 10.6 x 1.6 cm



「この砂はみんな水晶だ。中で小さな火が燃えてみる。」(『銀河鉄道の夜』)。冒頭の「宮沢賢治はなぜ石が好きになったのか」からはじまり、ミケルアンジェロと竜安寺の関係、モーツァルトが石の名前になったわけ、吉良上野介の墓石など、鉱物の深遠にして、不思議な真実が次々と披瀝される。石に対する深い愛と学識に裏打ちされ、優しい語り口で紹介される「砂漠のバラ」、「火星の石」、「黄鉄鉱」、「ラピスラズリ」は、愛好家ならずとも思わず魅了される。「珠玉」のエッセイ。図版多数収録。

鉱物の深遠にして不思議な真実が、歴史と芸術をめぐり次々と披瀝される。深い学識に裏打ちされ、優しい語り口で綴られた「珠玉」のエッセイ。これから何度も読み返す本になると思う。鉱物好きだけでなく、文学、美術、歴史、宝石の好きな人はぜひ読んでほしい！！

著者略歴

堀/秀道

1934年東京都生まれ。中学校時代より鉱物を愛好し、都立上野高校卒業後、北里大学化学科助手、モスクワ大学地質学部留学をへて、鉱物科学研究所を設立する。東北大学理学博士。新鉱物の欽一石、アンモニオ白榴石、ストロナ長石を発見、その功績に対して日本鉱物科学会より櫻井賞を受ける。その後も岩代石、田野畑石を発見する。